

令和6年度 第1回 静岡市立日本平動物園運営委員会会議録

日 時 令和6年10月22日(火) 午後2時00分から午後3時15分まで

場 所 日本平動物園 2階 大会議室

出席者 運営委員:古賀委員、小山委員長、田宮委員、永岡委員、野上委員、増田委員、山崎委員

事務局:竹下参与兼日本平動物園長、金澤担当課長兼飼育第2係長、山本参事兼園長補佐、
市川施設係長、岡村飼育第1係長、山田動物病院係長、望月主査、太田主事

オブザーバー:一般財団法人 静岡市動物園協会 榊原事務局長

傍聴者:2人

内 容

1 委嘱状交付式

2 開会

3 園長あいさつ

4 委員長選出

5 議事

(1)令和5年度の事業実績について

(2)令和6年度の事業計画について

(3)現況報告

①飼育動物の近況について

②飼育動物の繁殖状況と来園・出園・死亡動物について

③改修工事・修繕業務 進捗状況

④その他

⑤コレクションプラン改定について

6 閉会

< 会 議 録 >

【委嘱状交付式】

(司会:山本参事)

今年度就任された委員の皆様の委嘱式を開催する。

日本平動物園長より各委員委嘱状を交付。

【開 会】

会議は公開とすること、傍聴者が2名であること(定員3名)、委員の出席は7名全員であることを報告。

【園長あいさつ】

(竹下園長)

本日は、多忙の中、令和6年度第1回静岡市立日本平動物園運営委員会」に出席いただき、また、当園の運営委員に就任いただき、御礼申し上げます。

運営委員会では、動物園の運営や行事計画に関することなどを報告、提案し、各委員より意見等を

何う場となっている。よりよい動物園運営のために、忌憚のない意見、希望をお願いしたい。

さて、今年も猛暑や風水害に見舞われた厳しい夏であったが、行楽シーズン時期を迎え園内の賑わいもある中、最近秋を乗り越えた肌寒い空気を感じることもある。

これまで入園者数の伸びが芳しくなく、巻き返しをとも思っていた折りに、先日の豪雨等で、一部園内の法面で崩落や施設の雨漏り、落雷による制御基板の破損などが発生し、新たな施設修繕にも取り組まなければならない悩ましい状況にもある。

一方で明るいニュースもあり、当園では 3 年ぶりに誕生したマレーバクの赤ちゃんが人気を博している。動物園としては、様々な動物を飼育展示していくことで、環境問題等を学べる場を提供していく役割があるが、飼育動物の高齢化に伴う今後の継続的な動物飼育や、施設の老朽化に伴う再整備など、これからの日本平動物園のあるべき姿を考えていく時期に来ている。

冒頭にも申し上げたが、各委員には、当園の運営等に対して、忌憚のない意見、希望をいただきたいと思う。

【委員長選出】

(山本参事)

続いて次第4「委員長選出」について、暫時、仮委員長を竹下園長が務めさせていただく。

(仮委員長:竹下園長)

それでは、暫時、仮委員長を務めさせていただく。「委員長選出」についてお諮りする。

「静岡市立日本平動物園運営委員会規則第5条第1項」の規定により、委員会の委員長は、委員の互選により定めることとなっている。どなたか、立候補はいかがか。

(田宮委員)

事務局に一任する。

(仮委員長:竹下園長)

田宮委員より事務局一任のご発言があったが、事務局として(案)はあるか。

(山本参事)

事務局としては、学識経験者である小山委員をお願いしたい。小山委員は、静岡県立大学「ふじのくに」みらい共育センターの地域連携コーディネーターとして、様々な地域課題の解決に取り組んでおられる。多くのワークショップのファシリテーターを務めるなど、会議を円滑に進める経験が豊富であるため、小山委員を委員長として提案させていただく。

(仮委員長:竹下園長)

ただいま事務局より提案があったが、委員の皆様いかがか。

(各委員)

－異議なし－

(仮委員長:竹下園長)

それでは、小山委員を委員長に決定する。

続いて、静岡市立日本平動物園運営委員会規則第5条第4項の規定により、委員長が欠席したときのために「委員長の職務代理者」をあらかじめ委員長が指名しておくことになっているので、はじめに、委員長から職務代理者の指名をしていただく。

ここからは、小山委員長に議事進行をお願いする。

【職務代理者指名】

(小山委員長)

「職務代理者」について、私は、地元自治会長と当運営委員会の委員を長きに渡り努めておられる田宮委員にお願いしたいと思うが、いかがか。

(田宮委員)

－ 承諾 －

(小山委員長)

田宮委員に職務代理者をお願いする。

【議 事】

(小山委員長)

規則に基づき議長を務める。会議が円滑に進むよう委員各位の協力をお願いしたい。

次第に沿って項番5の(1)から(3)の令和5年度の事業実績及び令和6年度の事業計画等の順に事務局より一括説明をお願いする。

【事務局説明】

議事(1)令和5年度事業実績

(説明:山本参事)

事前にお渡しした資料を基に各項目の要点を一括して説明する。

① 令和5年度の実績について

令和5年度の入園者数、収入額について、令和4年度と比べ、1割ほど減少した。

収入額においては、前年度比で落ち込みが大きかったオートチェア・ローラースライダーだが、これは令和4年9月の台風15号の影響によるもので、山頂東側法面崩落に伴う同施設の運休が要因。

② 入園者の推移について

令和5年度並びに過去3年度の月別の入園者の推移は、2ページのとおり。コロナ禍以降の入園者数の回復は鈍く、横ばいが続いている。

③ 園内イベント実績について

令和5年度の主な園内イベントの実績は3ページのとおり。

その他各種イベントも開催しており、その実施状況は本日配布した「2023 年報」を参照されたい。

④ 企業連携事業について

企業との連携事業は4、5ページのとおりで、多大な寄附のほか、車両や動物飼料などの寄附をいただいた。また、連携イベントも多く実施した。

(説明:山田動物病院係長)

当園での繁殖や来園、出園した動物については6ページのとおり。

繁殖動物では、チリーフラミンゴの繁殖があった。

来園動物では、レッサーパンダの「守守(ショウショウ)」をはじめ、多種多様な動物たちが仲間入りしたほか、他園での繁殖推進等のため当園から出園した動物たちもあった。

(説明:市川施設係長)

7、8ページは主な修繕業務となり、主なものは、経年劣化に伴う屋上防水や外壁・電気設備等の改修を実施した「オオアリクイ舎大規模改修工事」や、冒頭の令和4年の台風15号により被災した斜面の復旧工事等、必要な施設修繕を実施した。

(説明:岡村飼育第1係長)

9ページの主な教育事業として、アジアゾウ骨格標本の展示をビジターセンターで開始した。

当園で50年以上を過ごし、令和4年5月5日に死亡したシンボルの動物であるアジアゾウの『シャンティ』を、骨格標本の実物とデジタルデータ、双方を活用することで、希少なアジアゾウの骨格について詳しく学習することができる。

(説明:山本参事)

10ページがその他事業で、入園料等のキャッシュレス決済の運用開始とインボイス制度への対応を行った。

令和5年度の事業実績は、以上。

議事(2)令和6年度事業計画

① 令和6年度事業計画について

続いて、令和6年度の事業計画等については11ページからとなる。

11ページ中段(3)計画概要の入園者数だが、9月末現在で昨年より1割ほど減少している。昨日までの入園者数は210,365人となり、昨年度同月同日までの217,980人と比較し、7,615人減少。昨年度と比較して減少した要因としては、夏以降の猛暑は昨年度と同様だが、今年は土日祝日に雨が重なったことも理由の一つではないかと考えている。

12ページから14ページが主要事業となり、記載のとおり、例年と大きな変更はない。

14ページ中段、今年の夜の動物園の入園者数だが、資料作成以降の入園者数を報告する。

10月12日が3,373人、10月13日が3,530人となり、合計で13,244人。

令和5年度とは開催日数が異なるため、同じ日数の令和4年度と比較すると1,500人ほど減少したが、ほぼ同程度の入園者数だった。

現況報告の主な事項については、15ページからを参照されたい。

議事(3)現状報告

(説明:岡村飼育第1係長)

① 展示動物の近況報告について

ホッキョクグマについては、残念ながら今年の交尾行動は確認されなかった。

次の繁殖シーズンに向け、年明け以降の同居飼育を予定している。

ツチブタのオスが昨年7月に南アフリカ共和国より来園したことにより、ペア形成ができたことから、この4月より定期的に同居を開始。ツチブタは国内での飼育頭数が少ない種でも

あるため、今後の繁殖に期待をしている。

(説明:山田動物病院係長)

② 主な繁殖、来園、出園、死亡動物について

繁殖については、当園で3年ぶりとなる「マレーバク」の赤ちゃんが誕生。生まれたころは写真のようなウリ坊柄であったが、現在は大人のマレーバクのような白黒のツートンカラーに変わってきている。

来園動物については、チリーフラミンゴをはじめとする数種の鳥類が仲間入りした。

出園した動物はレッサーパンダの「かずのこ」で、桐生が岡動物園へ出園。

死亡動物は、レッサーパンダの「タク」が7月16日に死亡。

平成24年に埼玉県こども動物自然公園から来園したタクは、多くの子どもたちの父親となり、レッサーパンダの種の保存に貢献してくれた。

(説明:市川施設係長)

③ 主な施設修繕について

ウッドデッキの老朽化が著しい山麓駅舎の改修修繕のほか、動物福祉の向上と飼育環境の改善を図るため、類人猿舎等冷暖房設置修繕などを実施。

(説明:山本参事)

④ その他事項について

民間企業等との連携事業については、長年当園と連携・協力をいただいている静清信用金庫様より、寄附をいただいた。「デコ活」とは、暮らしを豊かにし、脱炭素に繋がる活動に取り組むもので、当園では、レッサーパンダ等の動物の飼料として、市内の放任竹林対策の支援に活用させていただく。

このほか、しずおか中部5市2町で取り組む「大学連携による地域課題解決事業」として、「日本平動物園のPR・集客に繋がる連携事業の実践！」と題し連携大学を募ったところ、常葉大学、静岡英和学院大学、静岡産業大学からエントリーがあった。

現在、各学校と、当園の魅力向上のための連携、意見交換等をしている。

他園ではすでに実施しているところがあるが、当園でも「サポーター制度」を開始した。

これは当園の種の保存の推進や更なる魅力向上等を図るため、この趣旨に賛同いただける方々から広く支援を募り、応援いただいた個人又は団体を「日本平動物園サポーター」に認定するものである。支援金は「静岡市立日本平動物園整備基金」に積立て、今後当園が推進する動物の収集や獣舎等の施設整備などの経費に充てさせていただく。

新たな財源確保のみならず、動物園や飼育動物への愛着、応援したいという強い思いを持つファンとの共感と相互理解の醸成、協力体制の構築などを期待している。

(説明:金澤担当課長兼飼育第2係長)

⑤ 借用動物期間更新等調整業務について

当園でも屈指の人気を誇るホッキョクグマのロッキーだが、同個体はロシアのレニングラード動物園より借用しており、その期限が令和8年3月30日で満了する。当園としては、継続的な飼育展示を行いたいと考えており、この借用期間の延長等に関する協議をレニングラード動物園と行っていく。

⑥ コレクションプラン改定について

コレクションプランとは、動物園や水族館で継続的に飼育管理する種を選定し、策定したものをコレクションプランという。公益社団法人日本動物園水族館協会、以下 JAZA というが、その動物種の保全上の必要性、教育的価値、学術的価値、展示効果等の指標に基づき、JAZA 加盟園館で継続的に飼育管理することが必要と認められる種を選定したものを JAZA コレクションプラン、以下 JCP というが、を策定している。

日本平動物園では、この JCP を参考に、現在から将来にわたり飼育管理していくべき種を選定し、平成 28 年に日本平動物園コレクションプランを策定した。これは日本平動物園将来構想とも直結しており、当園の将来を考えるうえで非常に重要なものとなっている。

コレクションプランは、策定時からのその動物の指標の変化や、国内での飼育・繁殖状況、国際的な動物を取巻く状況の変化等により変更する必要がある。日本平動物園コレクションプランもこれまで開園 50 周年のタイミングや様々な状況の変化に応じ、随時更新してきた。基本的な方針としては、現在の飼育動物を維持していく方向で調整していくが、現在のコレクションプランを今一度精査し、内容を再検討している。

検討手順としては、現在、園内のコレクションプラン検討チームにより、先の検討を始めている。なお、チームメンバーは、飼育係飼育員5人、動物病院係獣医師1人で構成されている。検討チームにより策定した新コレクションプラン案を園全体で再度検討し、園の正式な案として決定したのち、今後の運営委員会で報告等させていただく予定である。

事務局からの説明は以上。

【 質 疑 応 答 】

(小山委員長)

事務局の説明について質疑を行う。

(永岡委員)

1ページ目と2ページ目の令和4年度の合計人数が違うようだが、どちらが正しいのか。

動物飼料への取組みのほか、障害者を対象にした「動物園に行こう」や、動物の手話を学べるイベントもあったようだ。また、市の図書館等との連携によるイベント開催など多岐に渡っている。残念ながら昨年度と比べ、入園者数は減少しているようであるが、入園者数増加策としてなにかあるか。

マレーバクの繁殖もあり、種の保存等、調査研究にもこれまで以上に組み込んでいてもらいたい。コレクションプランについては、ぜひ日本、静岡に生息している種の飼育も検討してもらいたい。

渋滞対策は、大変だと思うが、地元の理解を得ながら対応してもらいたい。

動物園が観光局に属しているとは知らなかった。日本平動物園は市が設置している動物園であるが、市や議会から何を一番期待されているのか。

（事務局：山本参事）

令和4年度の入園者数計についてだが、2頁が誤っていた。訂正してお詫び申し上げる。

資料については修正をする。

障害者を対象にした「動物園に行こう」について触れていただいたが、当園の場合は、普段なかなか訪れることができない、特に重度の障害を持つ方を対象としている。気兼ねなく動物園を楽しめる機会を提供していきたいと考えている。また、動物の手話を学ぶ企画については、市ろうあ協会のみなさまと一緒に企画し、大変多くのお客様に楽しんでいただいた。入園者数増加に向けた取組であるが、連携をキーワードに企業、大学など、あらゆるところと連携・協力をしながら誘客に繋げられるような施策に取り組んでいきたい。

（事務局：金澤担当課長兼飼育第2係長）

地域に生息している種の飼育については、今回のコレクションプラン改定の中でも検討をしていきたい。

（事務局：竹下園長）

動物園のほとんどが都市公園に属していることが多く、そのため他の自治体では公園部局が所管しているが、昨今は観光、誘客施設の一面もあることから、本市と同じように観光部局にあるところも多い。

市や議会からは色々な話はあるが、やはり誘客力の向上ではないかと思われる。コロナ禍前は市の施設で1、2を競う集客力を持った施設であったため、市外、インバウンドを含めた誘客促進の一助となるよう頑張っていきたい。

（野口委員）

ローラースライダーの復旧までに1年半くらいの時間がかかっているようだが、こういった理由か。

（事務局：市川係長）

被災した施設の場所が傾斜地であったため、重機等での作業が困難で、撤去等を人力で行う必要があったことが要因のひとつである。

（事務局：竹下園長）

この修繕は、国の災害復旧事業のため、現場の状況確認等、事務的な処理に時間を要したところもある。

（増田委員）

入園窓口でのキャッシュレス決済は手続きが早いように感じた。利用者も多いと思うので効果があるように思った。

今年も猛暑であったが、屋外での活動にも制限が生じる。動物園での暑さ対策についてはどう

考えているのか。

（事務局：山本参事）

来園者対策としては、屋外施設の動物園での対応はどうしても限界があるが、当園は屋内施設が充実しているので、そうした利用も勧めている。

飼育動物のほか、園スタッフへの対応もでき得る範囲で実施している。

（事務局：竹下園長）

屋外施設ということで、夏は動物園は弱く、屋内施設の水族館は強いという面はある。全国の動物園等の園館長が集まる会議でも暑さ対策は話題となるが、やはりミスト施設やパラソルなどを設置することで涼を感じられる、日陰を増やすといった対策が限界のようである。

一方でイベント関係では人気のサマースクールの夏の開催が困難な場合もあり、夏場の開催を気候の良い時期に変更する園館もある。

（小山委員長）

来年の夏は、今年よりも暑いという話を聞いている。皆で工夫する必要もあるが、限界がある

（古賀委員）

資料で収入面は把握できたが、支出面はどうなっているのか。

（事務局：竹下園長）

動物園の運営においては、入園料等の収入をその運営費に充てており、人件費を除く通常の経費についてはほぼ賄えている状況にある。ただし、不足する場合は市役所の他部署と同様に一般財源、いわゆる税金で補填されることとなる。

支出面については、削減に努めているが、特に光熱費や飼料費などの高騰が生じている。

（山崎委員）

飼料費の値上げの話があったが、動物園での飼料としてのジビエの活用についてはどうなっているのか。

（事務局：山本参事）

ジビエの活用 of 回答の前に飼料の対策として、コストコからの牛肉の提供、由比漁港からの未利用魚の購入、放任竹林整備で生じた竹の提供を受ける試行など経費削減対策を実施している。

（事務局：岡村飼育第1係長）

当園でジビエに類する飼料としてはシカ肉となり、高騰する飼料の代替品として伊豆から人の食用も可能な処理をされたものを購入している。ほかには、エンリッチメントの観点から、人の

食用と同等の衛生的な処理がされている皮や骨がついたままの鹿肉を愛知県から購入し与えている。

（事務局：金澤担当課長兼飼育第2係長）

ジビエについてだが、完全な野生の物の場合、病気や寄生虫などの危険性もあるため、人の食用が可能なレベルのものを与えている。

（田宮委員）

この地域は住みよい場所ということで、若い世代が多く、東豊田学区では子どもの人数が増えてきている。人が集まる場所の暑さ対策は必要で、レストランなどを涼しくして、おいしい物を提供するなどの魅力向上を行うべきである。動物園周辺の自然環境は良いので、暑い夏でも過ごしやすく楽しめる場の提供により、動物園の集客は伸びるのではないかな。

また、雨の日などの閑散時期の来園特典なども良いと思う。

渋滞については、以前ほど問題は生じていないと思うので、色々なイベントを開催して集客を図ってもらいたい。地元でもできることは協力していきたい。

（事務局：山本参事）

閑散時期の特典というご提案があったが、例えばどのようなものをイメージしているか。

（田宮委員）

動物と触れる機会が減っているように感じるので、そうした機会を増やすことで、子どもたちも喜ぶと思う。以前あった写生大会など、子どもを集める機会を増やせば、一緒に来る親なども集めることができる。

（オブザーバー：榊原事務局長）

レストハウスのメニューについては、動物園協会に対応している。定期的にお客様からアンケートをいただき、季節感のあるものなど新メニューの開発を検討している。

一方で、食材費や光熱費の高騰もあり苦慮しているが、魅力ある美味しいメニューの提供をしていきたい。また、レストハウスの外観にも少し手を加え、入ってみたいくなるような仕掛けも予定している。

（小山委員長）

サポーター制度の申請受付の状況についてはどうか。

（事務局：望月主査）

今回の申請受付は8月1日から今月10月末までの3カ月間で、現時点で30名様のお申込みがあり、支援金の合計は17万円となっている。全て個人で、1口5,000円のところ複数口お申込みいただいた方もある。

(小山委員長)

認定者には、認定証とピンバッジが貰えるようであるが、その他特典はあるのか。

(事務局:望月主査)

現時点ではその他はない。サポーター制度の趣旨は、当園を応援していただけるというものであるため、その証しとなる認定証などを交付することとしているが、今後サポーター専用のイベントの開催なども検討していく可能性はある。

(小山委員長)

こうした地域に根付くようなものは、息長く続けていくことが必要だと思うので、こうした制度をうまく活用して、動物園を盛り上げていてもらいたい。

(小山委員長)

ほかに質疑がなければ、終わりとさせていただきます。